

追小教育の新しい出発

学校長 川人 公一

本年三月、百十三期生、百五十名が卒業、晴れて伝統ある山桜会員となった。山桜会員諸氏のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

四月より、百十九期生、百五十九名が入学。将来の山桜会員の入学を心から祝いたい。厳しい入学審査を見事突破し合格、本校の一年生として迎えた事、誠に喜ばしくこれからの活躍を祈りたい。

平成十四年度、まさに日本の教育改革元年の年である。完全学校週五日制、新学習指導要領による授業等の全面実施がスタートした。大きな転換期なのである。本校においても完全学校週五日制を導入し、全教員の衆知を結集して作成した新追手門カリキュラムによって教育活動を開始した。総合的な学習等新しい教育を含みながらも「社会有為な人材の育成」を理念とし、「敬愛」「剛毅」「上智」の教育方針は不動である。伝統ある教育の継承を行い新しい教育へ邁進する基本精神はゆるぎない。基礎・基本の定着はもちろん、従来にも増して「高い学力」をは

かる事を重点としている。四教科にかけると数の充分な確保をもとに多様な弾力性に富んだ総合的な学習の時間等特色ある、そして充実した学習も実施する。「確かな学力の向上」、「心の教育の充実」を目標に児童達に追手門の子としての気品をそなえ、しっかりと「生きる力」を育成する事を主眼としている。又学校週五日制にもならない家庭教育の場も重要さを増した。自ら学び、考え、決断する事の自立心育成の場ともなる。母校の転換期、新しい学校作りにご理解いただき、山桜会員皆様の母校に対するご支援、ご協力を今後共々よりしくお願い申し上げます。次第です。

中・高等学校ニュース



コース制の導入を柱にした学校改革に取り組み、この四月で三年目を迎えました。年が明ければコース制の第一期生が卒業することになり、その成果が問われます。この間の取り組みを中心に、中・高の近況を報告します。

高等学校は学級定員を従来の46名から40名に変更し、240名の募集としました。これは、教育条件の向上と内部中学生のクラス減への対応を考慮したものです。

本年は内部生の頑張りにより、36名の中から英数コースに5名、理数コースに5名の合格者を出し、外部からの受験生の倍率は次のようになりました。英数コース10.9倍、理数コース6.1倍、総合文理科コース1.9倍。なお、総受験者数935名、うち外部受験者数157名であり、これは昨年比50%増でした。このことは追手門の学校改革が外部で評価され、中

学生にとって、「行きたい高校」保護者にとつて、「学ばせたい高校」になつていくという事実を示すものといえます。結果として272名の新入生を迎え入れることができたことは、私たちの大きな喜びであり、さらなる改革へ向かう意欲をかきたてるものとなりました。中学校も学級定員を40名から35名に変更し、70名の募集としました。昨秋の説明会やプレテストを経て、アカデミックコース59名、ダイナミックコース32名の91名の受験者を得ることができました。残念ながら入学者は46名でしたが、中学校にコース制を導入して2年目であり、昨年と比べて23名の受験者増であったことから、今後の展開に期待しています。とくに今年度の内部の小学校から4名の受験者頂き、内部的な評価も得られつつあることを有り難く受け止めています。

進学目標達成に向けて、昨年の春に学習統轄委員会を設置し、日々の学習の取り組みを様々な面で強化してきました。

第一に、授業の充実を図るために、中・高ともに新学期当初に「学習オリエンテーション」を実施し、学期ごとの対生徒「授業アンケート」により授業の改善を試みました。結果として、生徒・教師ともに授業に対する意識が高まりました。これに加えて、今年度は公開授業制度を導入しました。

第二に、総合文理科コースにおいて「英語の習熟度別授業」を実施し、成績に応じて学期ごとの授業クラス編成替えを行いました。これにより、学力に応じた手厚い指導を受けられ、理解が深まり、良い意味での競争意識が生徒の中に生まれました。また、成績不振者に対しては、中・高ともに「フィードバック学習」の手当てを行い、大学進学に向けては毎日7限後の2時間のアドバンスセミナーを実施し、22講座245名の参加がありました。さらに今年度は、高三の進学面での数値目標を達成するために、6時以降の特別セミナーを開講し、また、教員の教科指導力向上に向けて、代々木ゼミナールと提携した教員研修を実施しています。

オリンピック体験談

中西 拓 (茨高 38 期)

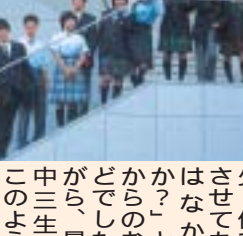


オリンピックの感想を一言で言うなら「おもしろかつたなあ」です。ソルトレイク中に記憶はつきりしているのに、今思い返すと夢の中の出来事みたいな感じがしています。僕がフリースタイルスキーを始めた動機は、ひとまえて目立ってるから。観客の歓声が大きなエネルギーになっていました。だから世界中の人に見てもらえるオリンピックに出られることは本当に嬉しいことで、行く前からかなり楽しみにしていました。試合までの練習期間は5日間、調子よく練習していたのに試合前日になって怪我をしてしまいました。その瞬間はもう出場は無理かと思っただけですが、トレ



した。そして名前が呼ばれました。スタートに立ちジャンプ台を見るとその向こう側にびっしりと人が埋まった観客席が見えました。いつもの試合と違う雰囲気でした。ゾクゾクしました。緊張もしたけど、オリンピックのスタート地点に立っている嬉しさのほうが大きかったです。怪我とか難度を下げることは頭から

吹っ飛ばしてしまいました。自分でも興奮しているのがわかりました。滑る前には落ち着いて演技に集中できました。2回目の演技を終えて点数が出るまでの間、気持ちよさにひたつていました。今まで出演したエアリアルは、シヨ一のなかで一番でっかいシヨイでした。いまこれを書いていても思い出してはやけてしまっています。オリンピック後の全日本選手権大会を最後に選手を引退しました。オリンピックも含めて競技生活を心楽しむことが出来た。出来なかつたことで、多くの方がすばらしい環境を与えてくれたからでした。卒業してもなお応援してもらっています。追手門関係者の皆さん本当にありがとうございました。ざい



科の「数値目標」を設定し、その達成度を外部模試の結果で点検することで、外部模試を軸として教科の指導・学習が行われるようになりました。

コース制を導入して一年目の中学校でも、朝礼時テスト、放課後学習、サマースクール、ウィンタースクールなどの熱心な学習指導の取り組みが行われました。ダイナミックコースについては、「もう少し伸び伸びと生活させてもらえるのではなかったですか？」と保護者の方からのお話がでるほどでした。しかしながら、最初に述べた中三生の頑張りはこのような取り組みの中からも生まれたものであることを銘記しておきます。

の3つのクラブについて新規に外部からコーチをお招きし、指導をお願いしています。従来からコーチについている柔道や種目の指導ができる教員が顧問であるクラブを含めると83%のクラブが、技術指導を受けることができ、充実したクラブ活動を送っています。一方、中・高コース制の将来展望を考へる六年生委員会の主導で、昨年9月より、中学一年生のダイナミックコースと中学二年生にベルリッツによる英会話導入されました。これは将来的な国際理解教育を中心とした教育の展開などの試行として実施されました。本年度は高等学校へ導入し成果を確認したいと思っています。

我々の改革のシンボルとして長年続いた制服を一新しました。新制服はイギリスのピーターマツカーサー社のデザインで、紺のフォーマルとチエックのグレーの替えスポン、タリタンチエックの替えスカート(高校は二種類)からなっています。中高の区別は、カッターの色が中学はクリーム、高校はブルーであり、女子の替えスカートの色柄が異なります。その他の取り組み情報化の教育に向けてコンピュータリムを新設し、東進Dスクールと提携したVTR個別学習室を新設しました。以上、ここには書き切れない様々な取り組みがなされています。だからといって、我々は旧來のすべてをなげうたわけではありません。追手門学院中高は、卒業生諸氏のイメージを壊すことなく男女共学の進学校として、クラスHRや学年集会、学校祭や修学旅行などを通じて、豊かな人間性の育成にも十分な努力を払って、今後とも生徒・保護者の皆さまの信頼や共感を寄せられる教育に取り組んでいく所存でございます。

